

2010年12月14日

平成22（2010）年度 私立大学情報教育協会
大学職員情報化研究講習会 応用コース
第6分科会 グループ1

グループ活動報告書

【メンバー】

進行	明治大学	直井 哲也
記録	(株)ネットマークス	藤岡 和人
発表	広島経済大学	瀬戸 麻由佳
	東海大学	宮寄 諒
	大阪体育大学	杉谷 源太
	大阪学院大学	大艸 優美
パワポイント	(株)日立製作所	庵原 誠一郎
報告	京都外国語大学	給田 佳名子

11月10日(1日目)

各大学の現状と問題点

グループ内で自己紹介を行うと同時に、それぞれの研修への参加目的及び到達目標を出し合い、意識の共有を行った。

11月11日(2日目)

東洋大学、専修大学からの事例報告に続き、グループ討議に入った。

まず、進行・記録・発表者の選出をし、以下のとおり決定した。

進行：直井哲也（明治大学）

記録：藤岡和人（ネットマークス）

発表：瀬戸麻由佳（広島経済大学）

討議については、創造的技法に基づいた全員参加型の討議を行った。

1. 問題・課題の共有

コミュニケーションに関連し、メンバーそれぞれの問題・課題の共有を行うために意見を出し合った。

瀬戸：答えを求めているような質問が多い。

メール内容が乏しい。（職員側からの意見）

統一した指導が必要。

杉谷：ICTを使って、こちらに来させる仕掛けづくりが必要

宮寄：学生に対する適切な指導をしていないのでは。

精神的な問題をかかえる学生、SOSを出している学生に対して解決する為のICT活用。

非対面、対面の両面からのしくみが必要

大舩：掲示板の活用をするなどして聞きにくい学生に対して職員が回答するような工夫が必要

学生→教職員に対してのICT活用（SNS等）

庵原・藤岡：学生・教員・職員の3者間での連携が欠かせない

教員と学生をつなぐためのICT、ヒューマンスキル活用が有効では

給田：学生の気づきに対する教員・職員のコミュニケーションが欠かせない

2. テーマの選定

次にメンバーで出し合った意見や問題点を踏まえて、テーマの選定を行った。

意見の多くが、学生本人が困っている、教職員が扱いに困っているなど様々な要因で困っている学生の増加をあげている。そのような学生を対面・比対面の両方からフォローできる体制をつくるためには、

- ・ICT活用により、FAQ、シラバスなどを公開し、学生自らが解決できる能力を醸成する。
- ・相談の場（対面・非対面）を設け、オンラインでの学内情報共有を促進し、教職協働によって悩みの潜在化防止を図る。

などの方法が考えられ、こうした意見をまとめて、第1グループではテーマを「困っている学生をいかに救い上げるか？ ～多様化する学生の支援方法について～」とした。

3. アイデア出し

4. アイデアの発表

テーマに基づき、困っている学生を救いあげるための様々なアイデアをできるだけたくさん出し合った。その際に、ICTを活用する、しないにはこだわらないこととした。その後、出されたアイデアを発表し、以下の4つのグループに大別した。

- ① コミュニケーションの場の提供
- ② コミュニケーションスキルの向上
- ③ 自己解決のための仕組み
- ④ 学生周囲の気づき

次の工程では、多様化する学生への個別対応が必要であることから、目的別に多様な支

援の方法について意見を出し合った。次にそれらの意見を ICT を活用する方法（非対面）と ICT を活用しない方法（対面）とに分類し、それぞれの特性を生かしたコミュニケーションツールの提案を行った。それらの提案を元に議論を重ねながら発表資料の作成を行った。

5. 目的の確認
6. 目的グループの分割・統合
7. 目的の文章化

<コミュニケーションの場の提供>

目的：教職員・学生間における双方向コミュニケーションの場を提供する事により情報提供・情報共有を図る。

【ICT 活用】

・ SNS：掲示板・Twitter として利用出来る。人と人とのつながりを促進・サポートするコミュニティ型の Web サイト。

入学予定者に対し不安を取り除く等（在学生、教職員、卒業生が管理）

・ ポータル：履修登録、シラバス閲覧、休講情報、教員出向状況、BBS (Bulletin Board System)

・ LMS：オンデマンド（申請制：復習利用）、レポート提出、掲示板

・ 携帯電話：即座にメールを確認。休講情報、教員出向状況確認が行える。

【ICT 活用しない】

・ 相談窓口：就職活動、履修登録、学生生活、留学、先輩との相談会

・ イベント（学祭、茶話会）：学生と教職員との活性化を図り気軽に話せる環境を作る。

・ 挨拶：コミュニケーションの基本を教える。

・ クラブ/サークル：学生同士、先輩との上下関係を培う。

<コミュニケーションスキルの向上>

目的：コミュニケーションスキルを向上することにより教職員・学生間のコミュニケーションへの積極的参加を促進する。

【ICT 活用】

・ e-Learning: コミュニケーションスキルのセルフ学習

・ ポータルシステム：コミュニケーションスキルの一問一答

・ SNS：コミュニティ活用（趣味、出身校、出身地といった共通属性を準備）

・ アバターなどの仮想空間：匿名性を利用したコミュニケーション

【ICT 活用しない】

・ 必修のセミナーや講義での体験型学習

・ 教職員の学生指導方針を行動レベルまでブレイクダウンし制度化

- ・ ピア・サポーター制度を設けて敷居の高さを緩和

<自己解決のための仕組み>

目的：多様なツールを充実させる事により、学生自らが解決できる能力を醸成する。

【ICT 活用】

- ・ FAQ サイト・システム：アクセスしやすい場所に配置し、画面上で自己解決させる
- ・ 携帯版 FAQ：見たいときにすぐ見られるように配置する
- ・ 性格診断、心理診断：自分の現状を客観的に知ることで問題の解決につなげる

【ICT 活用しない】

- ・ マニュアル：使う側にも配慮したわかりやすさを重視する
- ・ 掲示板：見てもらえる工夫（学生の動線に配置）

期待される効果

① 学生の社会人基礎力の養成につなげる

自己解決の経験を繰り返すことにより、「課題発見力」「主体性」「発信力」を身につけ、受身にならなくなり、ひいては学士力の向上につながる。

② 教職員の省力化：真に支援を必要としている学生の支援に注力できる

<学生周囲への気づき>

目的：学生情報を共有化と気づきの相互作用により、要支援学生を顕在化し、フォローの早期化を図る。

【ICT 活用】

- ・ 学生カルテ：情報の電子化・集約化により予兆を自動検出
- ・ 学籍簿：教学情報を通知
- ・ 授業出欠簿：欠席の続く学生をピックアップ・保護者への情報提供
- ・ 履修登録：登録に来ていない学生をリストアップ

【ICT 活用しない】

- ・ 学生相談状況（守秘義務に留意）

期待される効果

個々の学生情報をリアルタイムに又全教職員で共有することで、学生を早期に手厚くフォローできる体制をつくり、困っている学生を困ったままにせず、退学につなげない。学生が見守られている安心感を持つことができる。

まとめ

以上の内容を踏まえて、パワーポイント作成及び発表を行った。

11月12日(3日目)

リハーサルに続き、瀬戸さんによる発表を行った。

事後研修

研修後、eメールを利用して事後研修を行った。

発表後のコメントでいただいた「このような学園にしたいという理想像が示されていれば」とのアドバイスに基づき、グループ1では、理念・ビジョンについて討論を行った。

その結果、理念・ビジョンを「向き合える 支え合える あったかキャンパスへ向けて」とした。

最後に、進行を務めてくださった明治大学の直井さんと、発表者の広島経済大学、瀬戸さんの意見・感想を記載して、第1グループの報告とさせていただきます。

皆様の資質・能力に恵まれ、助けられた研修でした。業務フローを見直すことの意義や、人でなければ出来ない業務の大切さを、改めて共有いたしました。ICT導入前後では、利用者・関係者へのヒアリングが、利用状況を左右すると感じました。

グループワークでは、私個人の興味・関心分野を排し、皆様の合意形成に努めました。時間配分など、グループマネジメントも学べる良い機会だったと思います。

各大学、企業とも、優秀な方々を人財として迎えられ、育成されていることを実感いたしました。暖かく示唆に富むコメントをいただきました運営委員皆様、楽しく密度の濃い研修にしてくださった参加者皆様に、御礼申し上げます。(明治大学・直井哲也)

今回の講習会を通して、「ICTを有効活用していく仕組みこそが大切」であるという言葉がとても心に残りました。本学にもさまざまなICTツールが導入されていますが、それらを有効活用するために本来の目的を再度見つめなおしたいと感じました。また、グループの話し合いでも取り上げた、時代の変化に合わせた「ICTによる支援」と、従来の「人でなければできない支援」を組み合わせることで、困っている学生を救い上げる支援の幅が大きく広がることを認識することができました。

さまざまな方のお話を聞かせていただく中で、みなさんとても熱意を持って学生と向き合っておられることにも、大変刺激を受けました。ありがとうございました。(広島経済大学・瀬戸麻由佳)

以上